

TSWV抵抗性ピーマン「TSRさらら」の品種特性の解明

【研究のポイント】

近年問題となっているTSWV（黄化えそ病）は、ピーマンに一旦侵入すると株の引き抜きが必要になり、収穫が皆無になる恐れのある重要なウイルス病です。
この対策として、TSWVを媒介するアザミウマの防除を行うとともに、本病に抵抗性を持っている品種「TSRさらら」の導入が生産現場で進んでいます。
そこで、「TSRさらら」と県内の主力品種である「さらら」の品質や収量の違いについて明らかにしました。

【研究の成果】

●収穫時の果実品質について
果実の比重、果皮厚、色等について調べた結果、「TSRさらら」と「さらら」の品質は同等でした（表1、図1）。

表1 果実品質

品種	果重/体積 (g/cm ³)	果皮厚 (mm)	果皮色 b* ^z	35g果実高 (mm)	硬度 (kgf) ^y
TSRさらら	0.46	2.7	16.5	75.9	0.57
さらら	0.44	2.6	15.5	79.6	0.54
t検定	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

^zCM-3500d(MINOLTA)にて測定 数字が大きいほど緑色が薄い

^y果実硬度計(藤原製作所)Φ10mm,H12mm円錐形プランジャー貫入強度
n.s.:有意差なし

調査日:2020年8月12日 n=30



図1 果実の外観
上「さらら」、下「TSRさらら」

●株あたりの全節数と収量性について
ピーマンは枝の節に果実（花）が着く特性があり、節数が多いほど多収になります。「TSRさらら」は「さらら」と比べると全節数が少なく、収量が少ない結果でした（図2、3）。

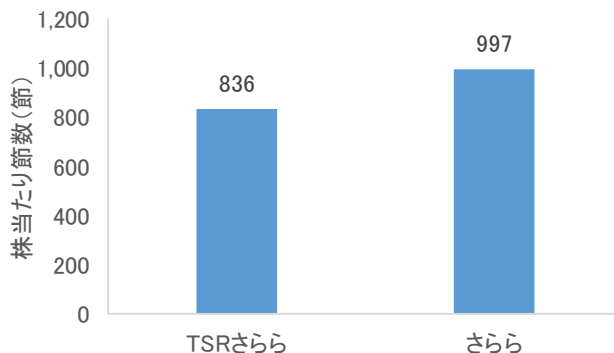


図2 栽培終了時の全節数

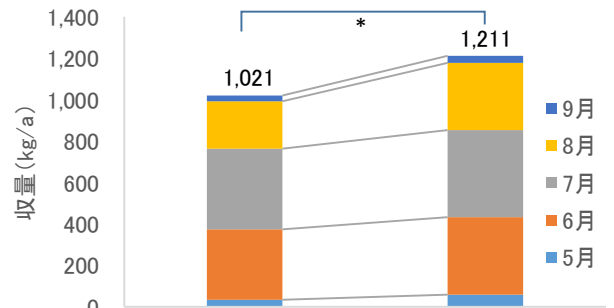


図3 月別の商品果収量

●今後の取り組み
「TSRさらら」の特性を考慮した新たな整枝技術等の試験に取り組み、「さらら」と同等の収量が確保できる栽培技術の確立を図ります。

【生産者の声】

黄化えそ病対策の一つとして「TSRさらら」の導入が必要になっています。
栽培するにあたって品種特性が事前に明らかにされたので、導入の際の参考にしたいと考えています。
(野津町ピーマン生産部会 部会長 小橋秀範)



【連絡先】

担当： 農業研究部 果菜類チーム
TEL： 0974-22-2081
住所： 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8